

# 現代文III

# 「現代文Ⅲ」の特長と使い方

## ●本書のねらい

このテキストは、大学入試に対応できる現代文読解力を養うことを目的としてつくられたものです。

大学入試をはじめとするテストにおいては、読解したことを答案に適切に表現しない限り、得点は与えられません。文章の内容が正しく読み取れていても、細部への注意を怠って答案としての表現が稚拙であった場合、内容がよく読み取れていないと判断されます。

このテキストでは、ジャンル別におさめたさまざまな文章を読んで設問に答えることにより、読解力とともに答案として表現する力を養うことにねらいを置いています。

## ●本書の特色

○このテキストでは、文章をジャンル別に分け、さらに入試によく出されるテーマ別に分けて各回でとりあげています。

○各回の**演習1**では、比較的短くて易しい文章を、後半の四ページでは入試標準レベルの長文をとりあげることにより、段階を追った学習ができるようになっていきます。

○解答を書き込むスペースをじゅうぶんにとり、答案作成の練習ができるようになっていきます。

○各回についている「基本確認演習」で、漢字・語句・文法・文学史の知識が確認できます。

## ●本書の構成と使い方

○**演習1**……………比較的小短くて易しい文章による演習問題です。基本的な問題が確実に解けるようになることをねらいとしています。

○**基本確認演習**……………漢字の読み書き、語句・文法・文学史の知識を確認します。

○**演習2**・**演習3**……………入試標準レベルの問題で、現代文の読解力と表現力を完全なものにすることをねらいとしています。

○**実力判定テスト**……………現代文の読解力を試すためのテストです。

《**解答・解説**》(別冊)……………解答例とともに、詳しい「解説」がついています。

# 目次

1	評論(1)——日本・日本人の特性……………	4
2	評論(2)——青春を生きるとは……………	10
3	評論(3)——文化の根底に潜むもの……………	16
4	評論(4)——現代文明の危機……………	22
5	評論(5)——情報と伝達……………	28
6	評論(6)——言葉と表現……………	34
7	評論(7)——作家と作品……………	40
8	評論(8)——文学・芸術と「人」とのかかわり……………	46
9	随筆(1)——人生をみつめる……………	52
10	随筆(2)——旅におもむ……………	58
11	随筆(3)——「あそび」のもつ意味……………	64
12	随筆(4)——言葉のあれこれ……………	70
13	小説(1)——若き日のおのきのきの中で……………	76
14	小説(2)——血の絆のはざまに……………	82
15	小説(3)——「神」と対するとき……………	88
16	小説(4)——歴史にロマンを求めて……………	94
17	韻文(1)——詩と詩論……………	100
18	韻文(2)——短歌と俳句……………	106
◆	実力判定テスト(1)……………	112
◆	実力判定テスト(2)……………	118
◆	実力判定テスト(3)……………	124

# 1 評論(1) — 日本・日本人の特性

## 演習1

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

# 本文

## 基本確認演習

〈漢字の読み書き〉

- ① 次の傍線部の漢字の読みを書け。
- 1 神木として崇める。 ( )
- 2 内側から溢れだす。 ( )
- 3 所謂個人主義なるものの意味。 ( )
- 4 大仰な単語ばかり並べる。 ( )
- 5 恐ろしい形相が浮かんだ。 ( )
- 6 世間の思惑を基準としている。 ( )
- 7 女郎花を眺める。 ( )
- 8 恒久的で、永遠なるものの。 ( )
- 9 一族の自墮落な生活。 ( )
- 10 機械の業に委ねられる。 ( )
- ② 次の傍線部のカタカナを漢字で書け。
- 1 早寝早起きをショウウレイする。 ( )
- 2 表面的な、ごまかしのソウサである。 ( )

# 本文

1 □ 1～30に入れるのに最も適当なものを次からそれぞれ選び、( )に記号で答えよ。ただし同一語を重ねて用いてもよい。

ア	陰陽	イ	対句	ウ	絵巻物	エ	曲線	オ	透し彫り
カ	構築	キ	四隅	ク	平衡	ケ	流動	コ	植物
サ	意識	シ	稜線	ス	発想	セ	反対	ソ	自然
タ	平仮名	チ	直線	ツ	鉱物	テ	花鳥風月	ト	対 <small>たい</small>
25	( )	26	( )	27	( )	28	( )	29	( )
19	( )	20	( )	21	( )	22	( )	23	( )
13	( )	14	( )	15	( )	16	( )	17	( )
7	( )	8	( )	9	( )	10	( )	11	( )
1	( )	2	( )	3	( )	4	( )	5	( )
30	( )	24	( )	18	( )	12	( )	6	( )

2 線部「色は匂へど」の意味として正しいものには○を、そうでないものには×を( )に書け。

- (1) 多様な色彩に映えて匂っているが ( )
- (2) いろいろの色彩の美しさを見せているが ( )
- (3) 現象はつねにうつりかわっているが ( )
- (4) 一時は美しさを競っていたが ( )
- (5) この世のうつりかわりは変わらないが ( )

3 文明がタイホし、人間が墮落する。( )

4 他人の意見にダキョウする。( )

5 テツテイした分業に基づく関係にする。( )

6 この思いつきはトロウに終わった。( )

7 戦争をバイカイとして、結ばれつつある。( )

8 「村」が「都市」にヘンヨウしていく。( )

9 人類的普遍性とはムジュンする。( )

10 ダンゼン反対する。( )

### ③ (対義語)

次の傍線部の各語と対立的に用いられる言葉を漢字で書け。

1 その提案を具**体化**するには何が必要か。( )

2 全体を総合して考えよう。( )

3 この動作の客**体**は誰か。( )

4 自由放**任**の教育も問題。( )

5 意味が曖昧だ。( )

**演習2**

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

本文

1 線①～⑥のカタカナを漢字で書け。

① ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

④ ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

2 線①・②の漢字の読みを書け。

① ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

3 線①「勤労者の中に醸成してきた」をわかりやすく説明せよ。

[ ]

4 線②「家の子郎党の淘汰」とほぼ同じ内容を具体的に述べている部分を、文章中より十字以内で抜き出して書け。

[ ]

5 線③「一層の拍車をかけた」をわかりやすく説明せよ。

[ ]

6 線④「自らが生み出した成果によって、集団主義は亀裂を生じつつある」を、この文章の内容に即して説明せよ。

[ ]

7 線⑤「職場に通うだけの籠の鳥の生活」とは、具体的にはどういうことか。この文章の内容に即して説明せよ。

[ ]

演習3

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

本文

本文



# 本文

1 線①～⑤のカタカナを漢字で書け。

① ( ) ② ( ) ③ ( )

④ ( ) ⑤ ( ) ( )

2 線①「特定の型にはまった行動」の意を要約することのできる漢語(二字)を文章中から抜き出して書け。

3 線②「身体芸術」と見なされている芸術を一つ採りあげ、その名を漢字二字で書け。

4 線③「未来への継続性」を、具体的に説明する形になっている部分(句読点とも七十八字)を文章中より選び出し、その部分のはじめと終わりの三字を書け。

  
 .....  


5 線④「万世一系」の対立語にあたる四字熟語を考えて、漢字で書け。

6 次の文章は、この文章で論じた問題についての筆者の最終的な結論である。[A・B]に入れるのに最も適当な語(ともに漢字四字)をこの文章の趣旨に沿うように、文章中より抜き出して書け。

右のように日本の社会では、近代化による伝統の復活という逆説的な過程が、年中行事・祭・家事行事等において見られる。あるいは、日本人の意識に、伝統的な部分がいままで残っており、それが生活の物質的な面の発達によって、かえって浮上し、表面化することもいえる。このような逆説的現象は、ひとまとめにいえば、  
 [A]の面では慣行と考えられる既成の行動型への強迫的な同調である。また[B]の面では、行動と意識の上で何かモデルになる新しい型をつくり出し、その型に従って行動しようとする、新しい定型化の欲求、新しくつくり出された型への同調傾向である。

B	A
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="text"/>	<input type="text"/>

## 9 随筆(1) — 人生をみつめる

### 演習1

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

# 本文

### 基本確認演習

〈漢字の書き取り〉

① 次の傍線部のカタカナを漢字に改めるには、あとのア～オのどれが最も適当か。記号を○で囲め。

1 娯楽にたいするジユヨウが旺盛で、芸術家の理念があいまいな時代

ア 授用    イ 需要    ウ 受用

エ 需容    オ 受要

2 彼らは世界の最新のシチヨウの中に生き……

ア 詩調    イ 詩潮    ウ 志調

エ 思潮    オ 思調

3 社会的にコウグウされるようになった芸術家

ア 巧遇    イ 好偶    ウ 好隅

エ 厚遇    オ 厚偶

4 タンテキにこのことを語っていると考えられる。

ア 端的    イ 単的    ウ 短的

エ 短適    オ 単適

# 本文

1 筆者は、冒頭のフランスの諺と二葉亭四迷が同じことを言っているというが、どのような点が同じだというのか。簡潔に説明せよ。

2 線①の「僕らが自分であり得る」とは、どういうことか。

3 線②「他人の目に映っている自分が、自然に見えてくる」とは、どういうことか。三十字以内で答えよ。


5 芸術家というガイン

ア 概念    イ 概念    ウ 該念

エ 慨然    オ 概然

〈文学史〉

② 永井荷風に関して次の問いに答えよ。

1 荷風と最も関係の深い雑誌を次から選び、記号を○で囲め。

ア 三田文学    イ 新思潮

ウ 文学界    エ スバル

オ 早稲田文学

2 荷風と関係が深く、また文学史上同一

派に見られている人物を次から選び、記

号を○で囲め。

ア 田山花袋    イ 芥川龍之介

ウ 有島武郎    エ 谷崎潤一郎

オ 泉鏡花

③ 「昂(スバル)」は、明治末期の著名な文

芸雑誌であるが、この雑誌に関係の深い文

学者はだれか。次から一人選び、記号を○

で囲め。

ア 島崎藤村    イ 夏目漱石

ウ 吉井勇    エ 二葉亭四迷

オ 島村抱月    カ 斎藤茂吉

演習2

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

本文

# 本文

1 ……線①・②は熟語の一部であるが、これにあたる漢字を次からそれぞれ選び、記号を○で囲め。

① ハンシヨク

ア 触 イ 食 ウ 殖 エ 植

② シシヨウ

ア 障 イ 衝 ウ 消 エ 償

2 ……線①・②はどのような意味で用いられているか。最も適当なものを次からそれぞれ選び、記号を○で囲め。

① 余念がない

ア 熱心に打ち込んでいる イ 邪心がない

ウ あくせくと働いている エ 心がこもっている

② 容赦ない重み

ア 孤独な状況の哀れさ イ 新緑に対比される老いの悲しみ

ウ 選択の余地のない厳しさ エ 時の流れに対する無常観

3 ……線①「新緑が妙に目に滲みる」理由について、筆者はどう考えているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 万物が伸びゆく季節に、子供たちの心身の成長を喜ぶ心が重なるため。

イ 街中でも我が家の庭でも、今年の新緑はとりたてて美しいため。  
ウ 老いた母の率直に生きる姿勢に対する優しさと、賛嘆の念があるため。  
エ さりげない日常生活のなかに、時間を超越した生命の輝きを知るようになったため。

4 ……線②「声もないようす」、③「眼をあげた」は、それぞれどんな状態を表現しているか。最も適当なものを次から選び、記号を○で囲め。

② ア 強い驚き イ 思考力の空白

ウ 緊張の持続 エ 恐怖心のなごり

③ ア 心残り イ 放心のさま

ウ 解放感 エ 安堵感あんど

5 老母を見る筆者のまなざしは、どのような思いに充たされているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 自分の生と重ね合わせて、母の老いを優しくみつめている。

イ 自然の恵みに感謝しつつも、母の老いに心を傷めている。

ウ 生の普遍的なありようとして、母の老いをみつめている。

エ 季節の巡りの中で、子供たちと母の老いを対比している。

# 本文

本文

本文

# 本文

# 本文

1 ……線①～④のカタカナを漢字で書け。

① ( ) ② ( ) ③ ( )

④ ( )

2 ———線①「なにか寂しいようなものが感じられてくることがある」について、その「寂し」さを、筆者は再び別の言葉で説明している。文章中からその部分を抜き出して書け。

〔 )

3 ———線②「これ」とは、何を指しているのか。文章中の言葉を用いて説明せよ。

〔 )

4 ———線③「忘れるということもないものがあるということである。憶えられないということである」について、このような状態を端的に表している語句を、一つ抜き出して書け。

〔 )

5 ———線④「私はよく触れたか」について、人に「よく触れ」とは、人をどのようなものとして見ることをいうのか。

〔 )

## 13 小説 (1)

若き日のおののきの中で

## 演習 1

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

## 本文

## 基本確認演習

〈漢字の読み書き〉

① 次の熟語の読みを書け。

- |    |      |   |   |
|----|------|---|---|
| 1  | 有為転変 | ( | ) |
| 2  | 和気藹藹 | ( | ) |
| 3  | 一瀉千里 | ( | ) |
| 4  | 杓子定規 | ( | ) |
| 5  | 醉生夢死 | ( | ) |
| 6  | 温故知新 | ( | ) |
| 7  | 天衣無縫 | ( | ) |
| 8  | 勸善懲惡 | ( | ) |
| 9  | 玉石混交 | ( | ) |
| 10 | 一触即発 | ( | ) |

② 次の傍線部のカタカナを漢字で書け。

- |   |                    |   |   |
|---|--------------------|---|---|
| 1 | 家名をイジする。           | ( | ) |
| 2 | 小説やギキョクの形で表現する。    | ( | ) |
| 3 | 料理は常に陰翳をキチヨウとしている。 | ( | ) |
| 4 | ウルシの器。             | ( | ) |



# 本文

1 □ A～Dに入れるのに最も適当な語を次から選び、( )に記号で答えよ。

- ア 桃の実    イ 栗の実    ウ 小石    エ 昆虫  
 オ 蝶        カ 毛虫    キ レース    ケ 錦

2 〰〰〰線①「皺くちやなシーツ」とは、何の、またはどんな風景の比喩だろうか。簡潔に答えよ。

- A ( )    B ( )    C ( )    D ( )

3 〰〰〰線②「天に義足を投げ出していた」とは、何の、またはどんな風景の比喩だろうか。簡潔に答えよ。

4 この文章中の「少年」の作詩の態度を要約し、八十字以内で書け。


5 彼はケンキヨな人間だともいえる。

6 コウリツ的で合理的かということを考える。

7 人工的なサクイをふくむ言いかたである。

8 単なるゲンシヨウに過ぎない。

9 哲学やシサクを表現する。

10 綿密シユウトウに規定する。

③ 次の傍線部のカタカナと同じ漢字を用いる語句をそれぞれ一つずつ選び、記号を○で囲め。

1 業セキを挙げる。

ア 実セキ    イ 谷セキ  
ウ 姻セキ    エ 遺セキ

2 岩をケズる。

ア サク雑    イ サク定  
ウ 圧サク    エ 添サク

4 ギ式を挙げる。

ア ギ術    イ 異ギ  
ウ 地球ギ    エ ギ性

## 演習2

次の文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

本文

# 本文

1 線①～⑤のカタカナを漢字で書け。

- ① ( )      ② ( )      ③ ( )  
 ④ ( )      ⑤ ( )      ( )

2  Aに入れるのに最も適当な文を次から選び、記号を○で囲め。

ア カニングなんて中学生になってからやるものだからな。

イ カニングなんかしたら先生にはすぐわかるからな。

ウ カニングなんかしたら掃除当番だぞ。

エ カニングなんて成績の悪い子供がするもんだぞ。

3  Bに入れるのに最も適当な語を次から選び、記号を○で囲め。

- ア 労いたわる      イ 励ますます      ウ 責めめる      エ 憐あはれむ

4  Cに入れるのに最も適当な語を次から選び、記号を○で囲め。

- ア 虚脱感      イ 情けなさ      ウ 緊張感      エ 威圧感

5 次の文は本文中より抜いたものである。本来の位置に戻すとすれば、どこが最も適当か。これに続く文の冒頭の五字を書け。

——やはりそうであった。教師は少年を疑っていて、今か今かと彼があやしい身ぶりをするのを待ちかまえているのだ。


6 線①「被虐的な疑惑」とあるが、その具体的内容を示す部分を文章中から抜き出して書け。

7 線②「得体の知れぬおののきに少年は酔っていた」とは、なぜか。その理由を文章中の言葉を用いて答えよ。

8 線③「少年は消ゴムを拾おうと軀をうごかしかけたが」とあ

るが、少年はそれがどのような行為として教師の目に映ると考えたのか。その理由を文章中の言葉を用いて十五字以内で答えよ。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

9

線④「そして、その柔らかい、しなやかなゴムを、二つに折

れるほどランボウにねじ曲げてみた」とあるが、そのような行為を

した理由として最も適当なものを次から四つ選び、記号を○で囲め。

ア 学校を休んでいたために、試験問題にひどくてこずった。

イ 悔しさと腹立たしさを覚えた。 ウ いらだちを覚えた。

エ 落ちた消ゴムが拾えず、そあくな答案用紙が破れた。

オ 落ちた消ゴムを拾わず、試験問題を解いた。

カ 全身全霊をもって試験に没入した。 キ 感動を覚えた。

ク 先生の疑いをはねのけた。 ケ 途中で間違いに気づいた。

コ 手のつけられなかった試験問題がほぐれた。

本文

本文

# 本文

1  A・Dに入れるのに最も適当な言葉を、それぞれ文章中から抜き出して書け。

A  D

2  B・Cに入れるのに最も適当な言葉を次からそれぞれ選び、記号を○で囲め。

B ア 怒り    イ 罪    ウ 嘘うそ    エ 石

C ア 失敗    イ 悲哀    ウ 不信    エ 後悔

3  線①「浩は気持ちが悪え、することが無くなってしまった気がした」とあるが、それはなぜか。簡潔に説明せよ。

4  線②「彼は川原の石を拾って、口へ含んで見た」とあるが、浩は何のためにそういう行動をとったのか。簡潔に説明せよ。

# 本文

## 17 韻文(1) — 詩と詩論

### 演習1

次の詩を読んで、あとの各問いに答えよ。

# 本文

### 基本確認演習

〈漢字の読み書き〉

① 次の傍線部の漢字の読みを書け。

- 1 なす術を|しらない ( )
- 2 委|しく説明する ( )
- 3 神経が|尖る ( )
- 4 言葉が|訛る ( )
- 5 出口を|塞ぐ ( )
- 6 水を道に|撤く ( )
- 7 借金を|強いる ( )
- 8 徒|に時を過ごす ( )
- 9 固|より承知のこと ( )
- 10 罪科を|許す ( )

② 次の傍線部のカタカナを漢字で書け。

- 1 何事も|シンボウが大切だ。( )
- 2 アマ|ダれの音が聞こえる。( )
- 3 進歩が|大きくカクセイの感にたえない。( )
- 4 若者たちは|労をイトウ傾きがある。( )

1 「はじめてのものに」という表題は、かなり漠然とした、含みの多い内容であることを思わせる。次から表題の内容に含めることができると思うものを三つ選び、記号を○で囲め。

ア はじめてのひとに      イ はじめて出あった地異に

ウ はじめての恋に      エ はじめての冒険に

オ はじめての山に      カ はじめて感じた希望に

2 線①「……」には、どのような言葉が言われずにあるのか。十五字以内で答えよ。


3 線②「いかな日にみねに灰の煙の立ち初めたか」は、藤原定家の『拾遺愚草』の百首歌の恋の部の「けふぞ思ふいかななる月日富士のねの峯に煙の立ち始めけむ」によった表現であるといわれている。「灰の煙」とは、ここでは何を比喩的に表現したのか。十字以内で述べよ。


4 詩人村野四郎は、この詩に次のような解説を与えている。解説文中の□A/Dに入れるのに最も適当なものをそれぞれあとから選び、( )に記号で答えよ。

この作品はかすかな自然の異変と、□Aとを照応させ、そこにさびれた自然の中に生まれた、□B人間の悲哀をモチーフとし、それをきわめて□Cに、きわめて□Dに表現した作品である。

A ア 相手のひとの突然の心変わり

イ 変わらずに語りつがれる火の山の物語

ウ 若い日の心の内部の異変

エ 相手のひとの蛾を追う手つきのいぶかしさ

オ 相手のひとのよくひびく笑い声

ア ア はげしい

イ 可憐な

C・D

ア 音楽的

イ 絵画的

ウ 感覚的

エ 伝統的

オ 抒情的

C ( ) ( )

D ( ) ( )

5 レイゾクの関係にある。( ) ( )

6 見るからにレイラクした姿だった。( ) ( )

7 政権がヒンパンに交替した。( ) ( )

8 損害をホシヨウして下さい。( ) ( )

9 電話線をフセツした。( ) ( )

10 生死のカントウに立つ。( ) ( )

#### 〈文法〉

③ 次の文は傍線部の語を訂正することによって整った表現になる。それぞれ訂正するのに適当なものをあとのア〜キから選び、( )に記号で答えよ。

1 あなたは、どうも私の感じがよさそうじゃないわね。( ) ( )

2 わたし、さつき偶然からその反証事実を得てきたわ。( ) ( )

3 自動車の運転をできる人は、たくさんいますわ。( ) ( )

4 変な人が、門の前にぶらついていているわよ。( ) ( )

アへイは      ウに      エを  
オの      カから      キには

## 演習2

次の詩を読んで、あとの各問いに答えよ。

## 本文

## 本文

1 この詩における作者の心情から考えて、最も適した題名を次から選び、記号を○で囲め。

ア 受験生      イ 羨望      ウ 蟬

エ 若い友      オ 振掬い

2 この詩の中に年少の友人の言った言葉の引用が八行ある。その引用の行をすべて抜き出し、それぞれの行の上の数字で示せ。

(      )      (      )      (      )      (      )      (      )  
 (      )      (      )      (      )      (      )      (      )

3 2の引用の箇所だと判断した理由を次から選び、記号を○で囲め。

ア 幼稚な言い方だから

イ 甘えた言い方だから

ウ 乱暴な言い方だから

エ 丁寧な言い方だから

オ 生意気な言い方だから

4 2の引用は、この詩においてどのような効果があるか。次から最も適当なものを選び、記号を○で囲め。

ア 年少の友人の言葉遣いが日本語として正しいかどうかを判断させることができる。

イ 風景描写だけよりも表現に変化がついて面白くなり、人をひき



つけることができる。

ウ 作中の人物像を生き生きと示すことができ、その気持ちをよく表現できる。

エ 平易で日常的な感じに表現できて、その作品の地方的背景などを理解させることができる。

オ 実際の会話の言葉によって、それが現実の事実であったことを示すことができる。

5 — 線①「また」と意味用法の同じ例を次から一つ選び、記号を○で囲め。

ア この絵もまた傑作ですね。

イ 君が来てもよろしい。また誰でもかまわない。

ウ 彼は外交官であった。また詩人でもあった。

エ いずれまたお伺いします。

6 — 線①「また」はどこを受けているか。行の数字で答えよ。

7 — 線②「蟬の声がやかましいようでは 所詮日本の詩人にはな

れまいよ」とあるが、次の句は、この詩と同じく「蟬の声」を詠み入れている松尾芭蕉の『奥の細道』の中の句であるが、に入れるのに最も適当なものをあとから選び、記号を○で囲め。

岩にしみ入る蟬の声

ア 清けさや きよ イ かしましや か ウ 嘆かしや なげ

エ さびしさや さび オ 閑かさや ひら

8 — 線②「蟬の声がやかましいようでは 所詮日本の詩人にはなれまいよ」は、作者がどのようなことを考えて言った言葉か。7の句を念頭において六十字以内で説明せよ。


9 — 線③「訳のわからぬうらやましい心持」で、作者は年少の友人のどういう態度・心情をうらやましいと思っているのか。簡潔に説明せよ。

演習3

次の詩と文章を読んで、あとの各問いに答えよ。

本文

本文

本文

# 本文

1 ー線①～③のカタカナを漢字で書け。

① ( ) ② ( ) ③ ( )

2 ー線①～③の漢字の読みを書け。

① ( ) ② ( ) ③ ( )

3 ー線①「みんな」は何を指しているか。すべて抜き出せ。

4 ー線②「儂い原形」の意味をわかりやすく説明せよ。

5 この詩のー線①・②を含む一行と、③「ひと風ごとに砂に埋れていった」の行とをつなぐとき、どんな接続詞が適当か。また、その接続詞のはたらきを何というか。

○接続詞

○はたらき

6 ー線④「見えない海」、⑤「候鳥の閃き」の風景(イメージ)は、この詩全体の構図の上から、何と言えるか。

7 6について、この文章は「どこかに終末的なイメージをひろげて」

と述べているが、何の終末を意味しているのか。

8 ー線⑤「候鳥の閃き」の「候鳥」の意味を書け。

9 この詩の初行から第五行目まで、作者が効果的に用いている表現法(修辞法)を何と言うか。

10 この文章の趣旨に合う文を次から二つ選び、記号を○で囲め。

ア 丸山薫の抒情詩は情緒に流されることはないが、批評的思考の重さが欠点とも言える。

イ 丸山薫の抒情詩は情緒に流されることがないよう、批評的思考がずっしりとはたらいっている。

ウ 丸山薫の詩の抒情の内面は、従来の情景主語のロマンティシズムの詩とすこしも変わらない。

エ 丸山薫の詩における抒情の内面は、凝縮されたイメージの構成で充実している。

11 □ A～Eに入れるのに最も適当な言葉を次から選び、( ) に記号で答えよ。

ア この詩 イ こうした詩作上の意識過程 ウ さて

エ いずれにしても オ ちらばった砲座の破片

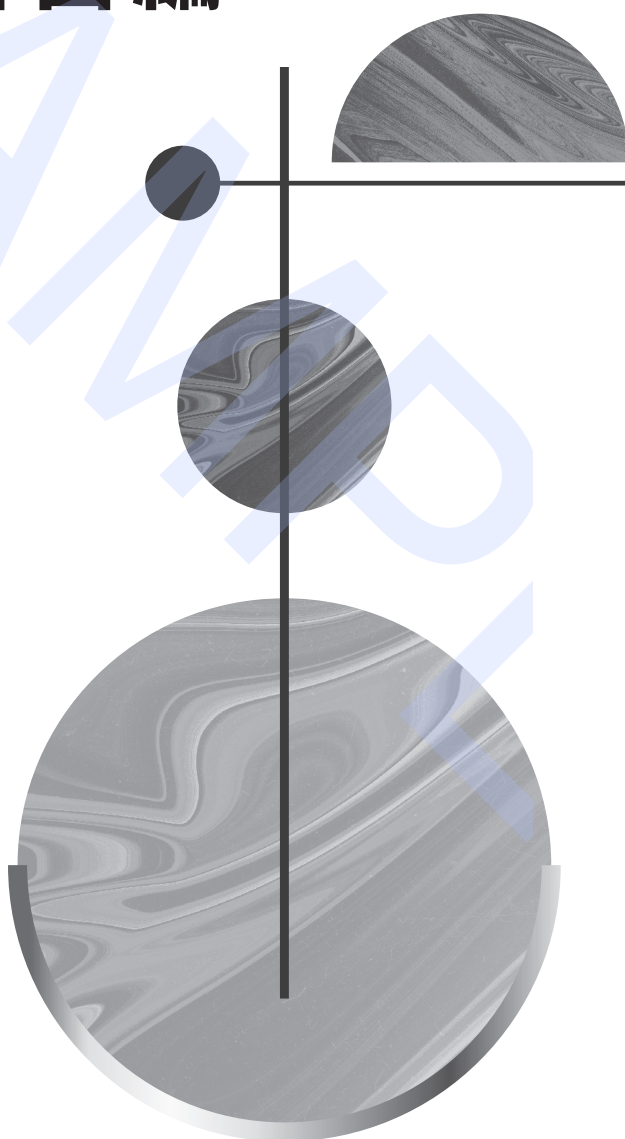
A ( ) B ( ) C ( ) D ( )

E ( )

高校ゼミ  
Essence

現代文Ⅲ

解答編



# ① 評論 (1)

(P 4 ~ 9)

- 演習1 1 1ケ 2 エ 3 シ 4 エ 5 カ 6 ク 7 ク 8 キ 9 ス 10 イ  
11 ア 12 ア 13 ト 14 ト 15 ソ 16 ク 17 ケ 18 タ 19 ウ 20 オ 21 ケ 22  
(3) × 23 ケ 24 テ 25 サ 26 コ 27 ク 28 カ 29 ケ 30 ケ 2 (1) × (2) ○  
(4) ○ (5) ×

# 解説

# 解説

## 基本確認演習

1 あが 2 あふ 3 いわゆる 4 おおぎよう 5 ぎようそ  
う 6 おもわく 7 おみなえし 8 こうきゆうてき 9 じだらく 10 ゆだ

2 1 奨励 2 操作 3 退歩 4 妥協 5 徹底 6 徒勞 7 媒介 8 変容 9  
矛盾 10 断然 3 1 抽象化 2 分析 3 主体 4 干渉 5 明確(明瞭)

## 演習2

1 ①維持 ②秩序 ③克服 ④敏感 ⑤効率 ⑥模(摸)索 2 ①そう  
さい ②ふつとう 3 勤勞者の心に次第次第に(忠誠心を)つくり出してき  
た。 4 余剰人員の解雇 5 いちだんと促進する力が加わった。 6 日本は  
貧困からくる集団主義によって高度成長をなし遂げたが、そこに生じた豊か  
さによる個人主義が集団主義を崩壊させつつある。 7 職場だけがすべてで、  
企業集団への忠誠心が要求される生活。

# 解説

# 解説

## 演習3

- 1 ① 勿論 ② 妥当 ③ 基盤 ④ 上棟 ⑤ 矛盾 2 慣行 3 舞踊(舞踏)  
4 将来に……になる 5 易世革命 6 A 過去志向 B 未来志向

# 解説

② 評論 (2)

# 解説

(P 10 ~ 15)

# 次講座

# 前講座

## 前講座

### ⑨ 随筆(1)

(P 52 ~ 57)

**演習1** 1 人間は体力や精神力が衰える老年になってからしか、自分の人生についての確な判断ができるようにならないという点。 2 自分の性格や能力をわきまえた上で行動することができるということ。 3 自分自身の存在を客観的に見ることができるということ。

## 解説

### (基本確認演習)

#### 演習2

1 ①ウ

②ア

2 ①ア

②ウ

3 エ

4 ②ア

③エ

5 ア

① 1 イ

2 エ

3 エ

4 ア

5 イ

② 1 ア

2 エ

③ ウ

## 解説

# 解説

演習3 1 ①点在 ②鈍 ③様相 ④怪  
がもれているように思えるのである。 2 われわれの、生きものとしての息  
れることができた対象 4 うわの空 5 現にそこに在り、しかもいずれはい  
なくなる者として見ること。

# 解説

⑩  
随筆  
(2)

# 次講座

# 解説

(P  
58  
〜  
63  
)



# 前講座

# 解説

## 基本確認演習

- ① 1 ういてんべん 2 わきあいあい 3 いっしゃせんり 4  
 しゃくしじょうぎ 5 すいせいむし 6 おんこちしん 7 てんいむほう 8  
 かんぜんちょうあく 9 ぎよくせきこんこう 10 いっしょくそくはつ ② 1  
 維持 2 戯曲 3 基調 4 漆 5 謙虚 6 効率 7 作為 8 現象 9 思索  
 10 周到 ③ 1 ア(績)イ積 ウ戚 エ跡 2 エ(削)ア錯 イ策 ウ控 3  
 ウ(儀)ア技 イ議 エ儀
- 演習2 ① 露見(顕) ② 即座 ③ 奇跡 ④ 粗悪 ⑤ 乱暴 2ア 3エ 4イ  
 5 湿っぽい憤 6 「やはりそうだ。先生はよくに注意したのだ。休んでいて  
 問題ができるはずがないから、隣の答案を覗くと決めてしまっているのだ」  
 7 全人種が、意地悪をしようとも、彼には、それに打ち勝つ隠された力がある  
 ことに気づいたから。 8 自分が隣の答案を覗くという行為 9 ア・オ・  
 キ・ク

## 13 小説(1)

(P 76 ~ 81)

演習1 1 Aカ Bキ Cウ Dア 2 いちめんに白く波立っている広い海  
 一面。 3 葉を落とした枝が空につっ立っている様子。 4 自分自身よりも外  
 界に興味を持ち、注意を惹いた対象が空想の中で美しい影像に早変わりする  
 時、至福を感じ、詩が生まれる。作詩とは空想の別世界を生み出すことであ  
 った。

# 解説

# 解説

# 解説

## 演習3

1 A 水平 D 虹色 2 B イ C エ 3 石を食べさせて罪の意識があったのに、自分の来るのを待ち兼ねているという火喰鳥の迫力に圧倒されたから。 4 場違いな棲家に移されても毅然とし、平気で石を嘔み込む火喰鳥のタフな神経に自分もあやかりたかったから。

# 解説

⑭  
小説  
(2)

# 解説

# 次講座

(P  
82  
〜  
87)

# 前講座

## ⑰ 韻文(1)

(P 100 ~ 105)

- 演習1 1 ア・イ・ウ 2 なんとむずかしいことだろう。 3 はげしい恋の思  
い 4 Aウ Bイ Cア Dオ

# 解説

### 基本確認演習

- ① 1 すべ 2 くわ 3 とが 4 なま 5 ふさ 6 ま 7 し  
8 いたずら 9 もと 10 とが ② 1 辛抱 2 雨垂 3 隔世 4 厭 5 隸属 6  
零落 7 頻繁 8 補償 9 敷設 10 関頭 ③ 1 キ 2 ウ 3 オ 4 エ

### 演習2

- 1 イ 2 6・7・9・10・11・12・13・21 3 エ 4 ウ 5 イ 6 6・  
7 7オ 8 芭蕉が蟬の声に深い閑かさを感じたように、日本の詩人は古来  
自然に対して鋭敏な美意識を持ち、風の音、虫の声を愛してきたのだ。9  
若い友人がまだ心がすれていなくて、素朴で素直で若さに満ちた肉体を感じ  
させること。

# 解説

# 解説

### 演習3

- ① ① 荒廃 ② 虚脱 ③ 典型 2 ① きょうしゆく ② まいぼつ ③ しゅ  
うねん 3 破片・亀裂・砲身 4 今では二度と原形に復すことのできない破  
壊される前の砲壘の姿。 5 接続詞：けれども(が・だが・しかし) はたら  
き：逆接 6 背景 7 万物の存在 8 渡り鳥 9 擬人法 10 イ・エ 11 Aウ  
Bア Cイ Dオ Eエ

# 解説